



おおあし

第11号

《 大芦小HP <https://oashi-e-konosu.edumap.jp/> 検索 》

6年生へ 卒業に向けて

大昔の中国の話です。

…孔子（こうし）という学者が弟子達とともに泰山の近くを通りかかると、墓の前でさめざめと泣いている婦人を見た。弟子の子貢（しこう）を使わせて婦人に泣いている理由を尋ねさせた。婦人は「私の夫の父は昔、虎に殺され、夫も虎に殺され、そして今回息子も虎に殺されました。」と答えた。孔子は「どうしてこの地を離れないのですか。」と訊くと、婦人は「ここには重税がないからです。」と答えた。孔子は弟子達に向かって、「よく覚えておきなさい。重税を住民に押しつける悪政は虎よりも酷いものだ。」とおっしゃった。

さて、そんな時代から年月が経った同じ中国の今度は、永州（えいしゅう）での話です。

…永洲の原野には黒地に白い模様のある猛毒をもつ蛇がいて、その体が草木に触れると、ことごとく枯れてしまう。しかし、これを捕らえて乾し肉にして薬にすると皮膚病の特効薬となることから、この地では一年に2回一匹ずつ租税として納めるとその他のものは免除になった。我れ先にと蛇を捕まえようとする者もいたが、たちまち食いつかれ毒で死んでしまうありさまだった。そんな中、三代に渡って蛇を捕まえている蔣氏がいた。ある人が蔣氏に聞いた。「なぜ命の危険を冒してまで蛇を捕めるのか。」蔣氏は答えた。「私の祖父と父は二人とも蛇の毒で死に、私も危うく命を落としそうになったことがしばしばあった。しかし、もしやめたならば蛇の代わりに収穫したものや収入をすっかり納めなければならず、飢え乾いて死んでしまう。それよりも年にたった二度の危険を冒すほうがましだ。」ある人はそれを聞いて、孔子はかつて「税の取り立てが激しい政治は、虎よりも凶暴なものである」と言ったが、私はそれを疑っていた。しかし、今の蔣氏の話から、それが真実だったことを知った。

6年生が今、PTA 広報誌に載せる「将来の夢」を書いています。多かったのが「将来、人の役に立つ人になりたい、人の役に立つ仕事をしたい」でした。「人の役に立ちたい」という6年生は、まさに本校の目指す、学校教育目標の一つである『思いやりのある子』を半分達成したということになります。（あとの半分は、思いを実行すること。）学年末の学級懇談会資料には、以下のことが書いてありました。

○友達のことを気にかけ、クラスみんなで協力して過ごそうとする姿が多く場面で見られました。

○高学年としての自覚をもち、下学年を優しくリードすることができました。

○素直な心をもち、自分たちがやるべきことに真剣に取り組んでいました。

○掃除や当番活動など、責任をもって自分の役割を果たしました。

孔子と弟子との問答をまとめた「論語」にこんな一説があります。

子貢問いて曰わく、一言にして以て終身これを行うべき者ありや。子曰わく、それ恕（じょ）か。

（弟子の子貢が「ほんの短くて、座右の銘にできるような言葉はありませんか」というから、そうさな、「思いやりか」と答えたよ。）

ところで、冒頭の「政治」についての孔子の考えが、同じく「論語」に出てきます。

子路（しろ）、政を問う。子曰わく、これに先きんじ、これを勞す。

（弟子の子路が「政治はどのように行うべきでしょうか」と訊くから、「人民に率先して働き、人民をいたわることだね」と答えたよ。）「高校生が感動した『論語』」 佐久 協 祥伝社新書2007年8月

6年生が将来必ずしも「政治家」になるとは限りませんが、思いやりの心やいたわりの心をもって人間関係を築いていけば本人も周囲の人も幸せになると思います。ICT、AIの進化により便利で快適な社会になる一方で、無言化、非対面化となっていく社会。先行き不透明と言われるそんな中でも、「恕」や「勞」の温かな心をもって、社会をリードするあるいは支える、まさに「役に立つ」人間に成長してくれることを願っています。

（校長 橋本 浩）

